

2021年度 第2回理容科教育課程編成委員会議事録

1 開催日時 2022年3月28日（月）13：00～14：00

2 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 浦和校舎 2階 ホール

3 出席者（7名）

	氏名	所属
1	石井 孝之	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
2	福島 正尚	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事長
3	若月 良仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事
4	高野 春夫	埼玉県理容美容専門学校 校長
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 副校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 企画広報課長
7	松本 朋子	埼玉県理容美容専門学校 理容科長

4 欠席者（1名）

1	吉野 昇邦	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
---	-------	--------------------

5 議事

（高野校長） 開会の挨拶

（司会：千住課長） 新校舎の内覧を実施し、各設備の説明を行う。

2回目を開催する旨を確認する。

2021年度シラバスについて、資料に基づき説明。

（松本科長） 理容科1年生 2021年度報告

理容科の特色であるシェービング技術について、エステティック分野との関連が近年はあいまいになっている。理容ならではの技術として再検証した。

理容科2年生 2021年度報告

コロナ禍であっても理容の求人は堅調であるが、特に都内のビジネス・パーソンを対象とする理容店が増加しており、待遇が非常に良いため就職が偏りがちである。

（千住課長） 各学年の報告を受けて、また実践的な授業実施に向けて委員の先生方のご意見をお願いします。

（石井委員） 理容と美容の違いも含めて、市場の変化が大きくなっていると感じる。現在の理容科での女子の比率はどうなっているのか。

- (松本科長) 20人の定員に対して、7名～8名程度にとどまっている。ブライダル・エステがトレンドであった時期から比較すると3割程度の減である。
- (若月委員) 理容ならではの技術としての再検証とは具体的にどのような取り組みか。
- (松本科長) 理容組合より講師を派遣していただき、プロのテクニックや「日本カミソリ」など歴史的な価値のある「理容技術」を間近に見る授業を計画した。
- (福島委員) やはり、実際に高度な技術を見たり、先輩の講話を聴くことは非常に貴重な経験になると思われる。今後もぜひ取り組んでいただきたい。
- (増村副校長) 専門学校では、即戦力としての訓練だけでなく今後技術者として生きていくために必要な知識の基盤作りも大切と考えている。
そうした意味でも業界からの講師派遣はより重要である。
- (高野校長) 就職に関する偏りは、埼玉県内への技術者の供給にも大きな影響が及ぶ問題である。
業界団体や関係各所とより密に連携していきたいので、ぜひご意見を伺いたい。
- (福島委員) 埼玉県内では個人店が多く、接客や技術など学生が就職して身に付けられる事は多いが待遇などは大手企業には及ばない点が多い。逆に店舗に対して現在の学生が求めるところを周知するようにしてほしい。
- (高野校長) 今後の課題として、皆さんからの意見を学校運営に反映させていきたい。
- (増村副校長) 閉会の挨拶